

## 大阪府立たまがわ高等支援学校 令和2年度 第2回 学校運営協議会の概要

- [1] 日時 令和2年12月23日(水) 午前10時00分～11時30分
- [2] 場所 大阪府立たまがわ高等支援学校
- [3] 出席 協議会委員5名 事務局員9名
- [4] 内容
  - 1 開会のあいさつ
  - 2 事務局から説明
    - (1) 令和2年度「学校経営計画」進捗状況について
    - (2) 「学校教育自己診断」について  
「授業アンケート」について
    - (3) 報告事項
      - ①進路状況について
      - ②生徒指導について
      - ③部活動について
    - (4) その他
  - 3 協議
  - 4 閉会のあいさつ
  - 5 諸連絡

### 議事録(抄録)

≪議事録中、●は協議会委員です≫

#### 1 開会の挨拶 (校長)

本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。大阪はコロナ禍によりレッドステージの状況で、顔を合わせての会議開催については考えたが、あえておこなうことにした。感染リスクへの対応はしているが、お気づきの点があれば教えていただきたい。

#### 2 事務局から説明

##### (1) 令和2年度「学校経営計画」進捗状況について (校長)

本年度の取組内容及び自己評価について。自己評価は、今年はかなり厳しい内容になると思う。体験授業は中止、見学会や懇談会は中止または延期、規模縮小など、資料通りにはすすんでいない。スポーツ大会も、大会自体がほぼ中止になっているので難しい。

「たまがわランド」は「月一マルシェ」として野菜販売をおこなっている。昨日で計8回実施した。感染リスクを軽減するために小規模で始め、最近チラシを近所へポスティング

するところまで来たが、レッドステージでまた厳しくなった。保育園交流も内容を考えると実施は難しい。

たまフェスは中止。体育の部は「体育祭」というかたちでコロナに対応した内容に変更して、保護者見学も人数を制限して、11月に実施した。文化の部も開催できなかったが、12月に「創立記念祭」というなまえで、授業見学と日頃の授業の成果発表として製品を買っていただく行事をおこなった。生徒たちは、自分たちが作ったものが売れるということで、良い顔をしていた。保護者の人数制限もあり、また、平日開催で地域の人に来ていただくこともできなかった。

就労について。年度はじめは例年通りできそうかと思っていたが、ここへきてコロナ禍の影響がある。指標も作っていたがそこまで届いていない。離職率もコロナ禍の影響かどうかはわからないが、高くなっている。

一方、ICT 機器を活用したオンライン授業、ギガスクール構想等は前倒しですすめている。校内学習会については今後もう少し成果の確認が必要。スクールソーシャルワーカーがずいぶん活躍してくれており、成果が見られる。T-ノートは昨年作成したもので、今年は活用についての総括をしている。コグトレも粛々とやっている。相談室の整備は生徒の希望を入れながらすすめている。部活動は基本的には活動していて、加入率 80%以上は継続している。大阪府の大会等も相次いで中止になり、生徒たちのモチベーションを保つのが難しい。

校内研修では、学習会を実施することが難しく外部講師による研修もできていない。代わりになることを検討している。イノベーション委員会では、T-ノートの総括とキャリアプランニングマトリックスを検討している。高等支援学校 5 校で作成することになっており、本校で試作している。最終的には他の 4 校に見てもらって、5 校全体のたたき台になれば、と考えている。

4 月、5 月は生徒の登校がなく、6 月以降は消毒作業がたいへんだった。最初のうちは次亜塩素酸ナトリウムで消毒しており二度拭きが必要だったため、生徒の下校後におこなっていた。また、シラバスが変わること等もあり、昨年よりも一人あたりの時間外勤務の時間数は増えるのでは。

## 質問

●委員 : タブレットを一人一台ずつ配っているのか。

校長 : 国の事業では小中学校で一人一台ずつ配られる。高校と支援学校の高等部は大阪府として単独につける予定。国と同じくかなりコロナに予算を使っているので、当初は小中学校に合わせる予定だったが遅れる可能性がある。

●委員 : 完備されればどんな授業をするのか教員が考えなければいけないのでは。

校長 : 小中学校は市町村で取り組んでいる。教員に授業の技術がないので、毎日の授業でどうやって使うか議論になっている。合わせて教員研修もおこなう必要がある。

●委員 : 授業体制は以前と同じか。

校長 : レッドステージでも授業は継続している。本校は 10 人～20 人での授業なので、

基本的には通常通り。ただし、合唱、調理実習などは制限している。例えば福祉の授業で介護の実習をおこなう際、生徒同士が接近するような場合は通常より配慮している。情報の教室ではアクリル板を立てておこなっている。

●委員：生徒が下校してからの消毒作業について、マニュアルで「生徒下校後」と決まっているのか。

校長：はじめは次亜塩素酸ナトリウムを使っての消毒なので生徒に触らせないようにしていた。ただし、アルコールでの消毒になってからは楽になった。教育庁からの通知では、「生徒にはさせないように」となっている。

●委員：今は病院や食堂などでも体温を測らされる。37度以上あれば止められて、厳しい。学校でもやっているのか。

校長：教員も生徒も朝の検温で37.5度あれば学校へ来ないようにしている。外部からの見学会などではサーモグラフを使っている。

●委員：無症状の人もいるからいつ感染するかわからない。下校後の行動制限もできない。

校長：最低限危険を排除する、という考えでやっている。

●委員：陽性者が出たときのマニュアルは作っているのか。

校長：用意している。

●委員：1月に予定されている2年生の修学旅行が中止になるかどうか心配している。指標はあるのか。

校長：大きくは定められているが、最後は学校の判断による。

●委員：学校の管理体制を問われるので神経をすり減らしているのでは。

●委員：自治会でももし何かあったら責任を問われるので、会をやめている。

校長：体育祭、創立記念祭など、行事のときの生徒の表情はいつもと違うので、何も行事がないのは学校としては苦しい。保護者もリスクを考えると怖い思いをしているのでは。

●委員：行事をやってほしい気持ちはある。

校長：しっかりと判断をして、前向きに取り組むしかない。

●委員：「月一マルシェ」はどんな形でやっているのか。

校長：テントを立ててお店を出し、買ってもらったらすぐ帰ってもらう。当初はいろいろな製品を出す予定だったが、今はまず継続することを優先している。

## (2)「学校教育自己診断」について(校長)

11月30日から12月11日までで実施。例年と同じ質問項目。対象は生徒、保護者、教員。現在集計中。分析をして、第3回の協議会で提供する。教員は100%提出、生徒保護者は7割程度の提出がある。

## 質問

●委員：アンケートの項目にコロナの件は入れているのか。

校長 : 経年をみるので質問項目は変えていない。コロナについてはどうしてもネガティブな内容になるので難しいのでは。ただし来年は必要になるかもしれない。

●委員 : 行事などに関する質問は、今年は実施していないものもあるので答えられないのでは。

校長 : 代わりの行事と読み替えている。

●委員 : 昨年と比較することはできるのか。

校長 : 昨年と今年のデータを出す。

#### 「授業アンケート」について

11月30日から12月11日までで生徒に実施。昨年との違いは、用紙サイズの変更のみ。質問項目やレイアウトは同じ。経年で見ると。

#### 質問

●委員 : 教員へのフィードバックはあるのか。

校長 : ある。教員の評価の参考になっている。

●委員 : 一人ひとりの評価が難しいのでは。

校長 : 複数で授業を担当しているので難しい。チームワークなので必ずしも一人の評価とは言えない。

●委員 : 全学年か。また、学年進行で比べるのか。

校長 : 全学年に実施。その年の授業の評価として見る。生徒から教員への通信簿のようなもの。学年進行は重視していない。生徒を思って厳しくしている教員の評価が悪かったり、甘い先生がよかったり、逆のパターンもあったり。読み取るのは難しい。

●委員 : 校長がしっかり把握してもらわなければいけない。でも、生徒に評価の基準がないと難しい。

### (3) 報告事項

#### ①進路状況について(事務局員)

1年生の状況。6月実施予定の「進路ガイダンス」は9月に延期。その中の事業所見学では、コロナの理由で断られることがあり、例年1クラス2社の予定が1社のみになった。その分の補填として、職場実習でお世話になっている事業所から借りた会社紹介のDVDを視聴し、就労についての学習をおこなった。11月予定の職場実習は1月に延期。全員の実習先が確保でき、個別の実習説明会をおこなっている。保護者には12月15日の「創立記念祭」の昼休みを利用して進路説明会をおこなった。

2年生の状況。6月実施予定の職場実習は9月に延期。11月は予定通り実施した。どちらの実習でも多くの実習先から受け入れのキャンセルが相次ぎ、企業の大変さを痛感すると同時に実習設定には苦慮した。

3年生の状況。コロナ禍でも年度当初には「就労あり」の実習先が100社以上あったため、本人、保護者の希望に沿ったあてはめができた。6月から通常授業になったが、実習への心構えなど生徒の準備ができないため、6月実施予定の職場実習は7月に延期した。コロナ感染拡大に伴い、主に中小の会社を中心に実習受け入れが不可になるケースが増えた。

新規実習先の開拓について。例年は夏休みに全教員で開拓をおこなうが、今年は夏休み期間が短くなったため進路部員のみでおこなった。約100社のうち25社から受け入れ可能と返事をいただき、3年生の実習先としてたいへん助かった。ただし、例年年間を通じて実習受け入れの話があるが、今年はほとんどない状況。また事業所対象見学会への参加企業も少なく、新規実習先は増えていない。

## ②生徒指導について（事務局員）

4月8日以降の指導案件について（おもに授業時間を使って指導した件数）。他人への嫌がらせが8件。コミュニケーションの乏しさによるものが多い。言葉のやりとり、物を隠す、からだの距離が近い、など。暴言や暴力が10件。自分の感情をうまくコントロールできない。迷惑行為が3件。全生徒共有のホワイトボードに落書きをするなど。窃盗が2件。他人の筆箱を盗る、借りていた物を返さないなど。いじめが2件。自分の荷物を無理やり持たせる、自分は仲が良いと思っていたが相手は嫌がっていた、友達と思っている相手のロッカーのカギをトイレに流すなど。その他、登下校中のマナー、コミュニケーションの相談を受ける、など。

いじめ対策について。今年度いじめ対策委員会を2回開いた。指導後の見守りは3か月継続するが、今のところ2件とも解除していない。被害生徒の気持ちが解消されていないため、毎週懇談をしている。話を聞いて被害者の気持ちに寄り添う指導をおこなっている。

相談室の利用とスクールソーシャルワーカーについて。相談室の整備を、夏休みに生徒会と有志の生徒でおこなった。エアコンも設置してもらった。相談室は困ったときに利用するもので、いつでも利用できるものではない。この点を全生徒へ周知する必要がある。スクールソーシャルワーカーは不登校生徒の対応をお願いしている。家庭に不安のある生徒の案件が多い。スクールソーシャルワーカーと話をし、学校へ登校できるよう寄り添った支援を学校と連携しておこなっている。

## ③部活動について（事務局員）

部活動について。今年度、大きい大会などは中止になっている。サッカーとソフトボールは全国大会を決めていたが、今後実施されるかどうかわからない。生徒たちは目標を失っているが、教員チームと試合をして教員チームが負けた。いい試合ができたのでは。

## 質問

●委員：T-ノートについて。今年度から活用がはじまり、「できたこと」の蓄積で目標設定をして自己肯定感を養う、とのことだが、活用によってマイナス要素が減ったなどの生徒

の変化はあったのか。

事務局員：自己肯定感が低い生徒が、自分ができるようになったことを客観的にみられる。また、教員からの声かけも「できたこと」を中心におこなう。一定の効果はあったのでは。

●委員：課題のある生徒が良い方向へすすんでいるのか。

事務局員：指導の中で、今後改善しなければいけないことを T-ノートに書いて活用している。

●委員：1週間ごとに振り返りができるので、保護者としてはわかりやすい。ただ、保護者がチェックをする欄がないので、見ていない人もいる様子。サインする欄があれば。

校長：高校生なので、自分の気持ちを先生と話す、というような内容を、保護者が必ず見るのはいやな生徒もあり、書かなくなってしまうかもしれない。自分の将来、自分のことを書こうとしている。懇談会で T-ノートの話をすることはできるのでは。

●委員：自分のスケジュールを管理できるようになれば、使いこなせるようになってほしい。そのうえで、将来他のスケジュール帳を使えるようになれば。

●委員：趣旨が先生と生徒のものなのであれば、自覚を持たせる意味でも保護者に見せるのは難しい。卒業したら社会人。子離れ親離れできないようなことにならないように。

校長：まだまだ保護者と一緒に歩む生徒もいますが。

●委員：毎日記入するのか。

校長：毎日です。来年度からはキャリアパスポートのページも作る。今年からはじまっているので、保護者の意見もどこかで聞いておく必要がある。

#### (4) その他

特になし

### 3 協議 司会を●委員へ

司会：これまでの説明を受けて、質問やご意見は。

●委員：就労するうえで感情のコントロールなどのベースを固めるのが大切。そのうえで職業スキル。自分の施設ではそのためのグループワークをたくさんやっている。学校教育の中でプログラムはあるか。

校長：学校は基本的には教科学習。何か気になることがあればカウンセリングなどを受けることができる。他には教員が話を聞いて指導するなどの個別対応。

司会：大阪府ではアンガーマネジメントの研修があるのでは。

校長：教員向けの研修がある。自立活動ではコグトレをすることで情緒の安定を図っている。プログラムについてはこれから模索していかなければならないが、何かを削らなければ

ばならない。

●委員 : 発達障がい生徒には必要。

校長 : 本校は課題別ではなくクラスごとの授業なので、個別でないが届きにくい内容。何かできるのか考えていきたい。離職率につながる、という認識はある。

司会 : 離職の理由は。

事務局員 : コミュニケーション不足と勤怠状況。

司会 : 一般的にもコミュニケーションの不足を言われる。授業の中で教員がどうすればいいか考えることも必要。

校長 : どの授業も就労を見据えた授業をしているので、時間を守ること、決められた役割を果たすこと、などの指導をおこなっているが、個人ではなく全体に話す難しい。個別に伝えて初めてわかる。

司会 : 就職するときに離職するかどうかわかる。

校長 : 新年度の3年生を指導しながらアフターケアをするのは難しい。授業する人数しか教員はいないので、誰かが抜けてアフターケアをすることになる。物理的な限界がある。

司会 : 部活動は全員参加か。

事務局員 : 加入は80%ぐらい。

司会 : 多い。一般の高校のほうが低いのでは。

司会 : 生徒指導の案件について。経年で見た場合の比較はどうか。

事務局員 : 昨年より案件は少ない。生徒の様子も変わってきている。

司会 : コロナの理由で不登校になっている生徒はいるのか。

事務局員 : その原因では今のところない。当初は「怖い」という生徒もあったが。

司会 : 部活動で、教員と試合をするのは良い取り組み。生徒も救われる部分があるのでは。体育祭でも教員とのリレーが一番楽しんでいる。入れていただいたら。

●委員 : 今年の体育祭も楽しんでいた。コロナ対策もしっかりとしながらだった。

司会 : 最後にお一人ずつ感想を。

●委員 : 体育祭や創立記念祭を、コロナ対策をしながら小規模でも実施してもらって保護者としてはありがたい。子どもが頑張っている姿を見ることができた。自粛が続いていたが笑顔で競技している姿を見られてよかった。

●委員 : 企業もコロナで厳しいと聞いている。しかし、各企業では感染した場合のマニュアルを整備して、決められた中でいかに実習を積極的に受け入れられるか、徐々に確立できているとも聞いている。来年以降、多少明るい状況も見える。可能な限り協力したい。

●委員：老人ホームで仕事をしたときに、若い介護士が「老人は大変」というが看護部長は「かわいい」と言っていた。学校の先生もそういう意気込みでないといけない仕事。学生は言いたいことを言うので先生方は精神的な指導もしなければいけない。

●委員：コロナで制約がある中で、これまで通りの就労支援ができない。そんなときでも生徒の成長を促す活動をされていると思う。また、T-ノートに期待している。効果的な活用ができるよう改善を含めて取り組んでほしい。就職活動も変わってきている。Zoomで面接、などもある。ICTが重要。職員もうまく使いこなせるようになるために、朝礼もZoomでおこなっている。交代で設定して全員が使えるようにしている。機器をどうやって使うか研修とセットで、といわれていたが、働き方も含めて研究しなければいけない。知的障がい者は在宅勤務できないといわれるが、卒業生に在宅勤務をしていた人もいた。ぜひ一緒に研究をしていきたい。

校長：大阪府はG Suite for Educationを使う。情報の授業で全員がログインできるように指導している。課題をする、提出する、などができるので、オンラインになった場合は活用したい。英語の授業で試行したが、一般の高校生より使えるのでは。WEBカメラも入った。

●委員：訓練の時間を短くした分はZoomを使って自宅でやっている。少しずつ訓練に取り入れたい。家庭環境によって違ってくることもあるが。

校長：Wi-Fiの環境によって違う。パソコンがないところもある。タブレットが配布されれば変わるかもしれない。

#### 4 閉会の挨拶（校長）

このような時期にお集まりいただきありがとうございます。貴重なご意見、先生方の励みになるお言葉をいただきました。できることをしっかりとがんばっていききたい。第3回では総括などの報告をします。

#### 5 諸連絡（司会）

第3回は3月ごろを予定しています。

以上